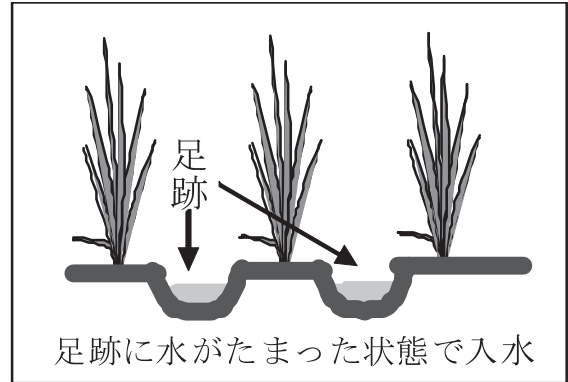


## 水稻の栽培ポイント

### 1. 水管理

#### (1) 間断かん水の実施

- 田植後1ヶ月程度で必要茎数(1株当たり20本程度)が確保できたら間断かん水を行きましょう。
- 麦わらをすき込んだ圃場については、わらが分解される際、ガスが発生して、水稻の初期生育に影響を与えることがある為、移植20~25日後から早めの間断かん水を行い、ガス抜きをしましょう。



### 2. 加里の追肥

#### (1) 施用時期

- 出穂45~40日前(普通植とちぎの星:7月上~中旬、普通植あさひの夢:7月中旬)に加里を追肥すると、稲体を健全に保ち、根の活力を維持できます。特に、けい酸加里は茎葉部を硬くし、倒伏やいもち病に対して強くする効果があります。

#### (2) 施用量

加里成分で10a当たり4~5kgを施用します。

肥料名の例	10a当たり施用量
塩化加里(粒)	7~8kg
けい酸加里34	20~25kg

### 3. 穂肥の施用

- 品種ごとの標準的な穂肥の時期と量は下表のとおりです。
- 葉色が濃すぎる場合は穂肥の量を減らすか、施用時期を遅らせます。

※一発基肥(BBあさひの夢専用222など)を使用した場合は穂肥の必要はありません。

品種名	穂肥の時期	10a当たり施用量(肥料の例)
コシヒカリ	出穂の15日前 (幼穂長1.9cm)	窒素成分2kg前後 (NK-707号、NK-202号 10kg前後)
とちぎの星	出穂の15日前 (幼穂長2.0cm)	窒素成分2~3kg (NK-707号、NK-202号 10~15kg)
あさひの夢	出穂の18~20日前 (幼穂長1.9cm~0.8cm)	窒素成分2~3kg (NK-707号、NK-202号 10~15kg)

## 稲こうじ病

### 1. 病徴

稲こうじ病は糸状菌によって引き起こされる病害で、イネの籾に暗緑色の厚壁胞子の固まりである病粒を形成します。現在の農産物検査規格では、稲こうじ病による被害粒の混入が確認された場合には規格外となり経済的な被害が大きくなってしまいます。

足利市ではここ数年発生が続いており、肥料を多く施用するあさひの夢や飼料用米で多く発生しています。

(裏面あり)

## 2. 発生生態と伝染経路

病癩に形成された厚壁孢子が稲刈りなどによって地面に落下する。土壤中で越冬します。昨年発生が見られた圃場では今年も発生が懸念されるので、防除が必要です。

### ○防除

- ・銅剤（ボルドー）を出穂 20～10 日前に散布。
- ・シメコナゾール粒剤（モンガリット粒剤）を出穂 21～14 日前に散布。

※この期間以外の散布は効果が落ちます。幼穂長が 1～5 cmになっているのを確認して散布  
出穂期のいもち病との同時防除では効果が極端に低くなるので注意！

### 【防除農薬の例】

農薬名	希釈、散布量	使用時期	使用方法	使用回数
モンガリット粒剤	3～4 kg/10 a	収穫 4 5 日前まで	湛水散布	2 回以内
ドイツボルドー-A	2 0 0 0 倍/6 0 ～ 1 5 0 l / 1 0 a	収穫 1 0 日前まで	散布	2 回以内

（農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。）

### ○耕種的防除

- ・多肥栽培は発生を助長するので適正施肥を行いましょう。特に肥料が遅効きしないようにする。
- ・発病が確認されてからでは防除は間に合わないため、予防的な対策が中心となります。

## いもち病

いもち病は、収量・品質に多大な被害をもたらす病気です。

曇天・少日照・やや低い気温（25℃くらい）・高湿度などの条件で感染し易くなります。

感染に好適な気象条件が現れたら、圃場の見回りをこまめに実施し、早い段階で病斑を発見して防除を行いましょう。

### 【防除農薬の例】

農薬名	希釈、散布倍率	使用時期	使用方法	使用回数
ブラシン粉剤 DL	3～4 kg/10 a	収穫 7 日前まで	散布	2 回以内
キタジン P 粒剤	3～5 kg/10 a	葉いもちに対しては初発 7 日前～初発期 穂いもちに対しては出穂 7 日～2 0 日前	散布	2 回以内

（農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。）

## 紋枯病

紋枯病は、高温多湿条件で発生し易くなり、7月下旬頃から葉鞘部に楕円形の斑紋（淡緑色～灰色）を形成します。8月上旬頃から隣接株へ感染していき、出穂期後に上位葉へ病斑が上がってきます。

### 【防除農薬の例】

農薬名	希釈、散布倍率	使用時期	使用方法	使用回数
モンカット粒剤	3～4 kg/10 a	出穂 3 0 ～ 1 0 日前で但し収穫 1 4 日前まで	湛水散布	3 回以内
キタジン P 粒剤	3～5 kg/10 a	出穂 7 ～ 2 0 日前	散布	2 回以内

（農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。）